

## 新潟県村上市旧山北町：スギ造林地における赤カブの焼畑栽培

### 1. 地域の概況

新潟県の旧山北町は、山形との県境に位置し、日本海沿岸の山地の多い地域である。その立地条件より同町では、かつて農業、林業、漁業の3部門の生産額のバランスが揃っていた。しかし、近年スギなどの国産材林業の後退は著しい。そのような中でもスギ伐採地において、造林の際に焼畑による赤カブ栽培は、持続可能な活動として注目を集めている。



図1 新潟県の旧山北町

### 2. スギ造林と結びついた赤カブ栽培

この地方では焼畑をナギノと呼ぶ。焼畑はスギ造林作業においては、苗木植栽の地拵えや下刈作業が大幅に軽減されるものとして伝統的に行われている。林地の所有者は山林家であるのに対して、赤カブ栽培は地元農家の主に婦人達の現金収入源として行われる。つまり、林地地主は造林作業の軽減が利益であり、赤カブの販売収益は地元の婦人達のものとなるため、8月上旬の焼畑作業は婦人達を中心となって行われる。しかも両者の間では、現金や収穫物のやり取りはほとんどなく、いわば入会慣行として継承されてきたと考えられる。



図2 等高線にそって火を管理しつつ下ろすため、火入れは斜面上部から開始する

出典：自然研

### 3. 持続可能な伝統的農業

焼畑は、かつて農業収穫を補うものとして全国の山地斜面で行われており、雑穀、マメ、イモ類など様々な作物が輪作され、地力の回復は長い休閑期に委ねられた自然的な農業である。しかも日本での焼畑作業は、防火帯など火の管理に十分に配慮しており、決して粗放な農作業ではない。栽培されている作物も、各地の多様性の高い在来種である。伝統的利用が持続可能であり、安全な食物を提供してきた事実は、将来の農業と自然環境との関係を考える上でも大きな課題である。



図3 火入れ直後の婦人達による赤カブ播種

出典：同上

出典：東京財団．食のたからもの再発見プロジェクト．2008．

<http://www.tkfd.or.jp/research/sub1.php?id=25>